

## 「もっと活動と参加への関与を」

株式会社ライフリー

佐藤孝臣

これからの日本は少子高齢化に伴う人口構造の変化と疾病構造の変化に対応していかなければなりません。高齢者人口が増え生産年齢人口が減り、コロナなどの感染症により社会参加を制限して生活不活発な高齢者も増加しています。その中で医療・介護も「活動・参加」がキーワードになっています。疾患の治療だけでなくADL・IADLの質と量を向上し「いきいきと活動的に生活を維持していつまでも元気に住み慣れた地域で過ごす」ことが求められています。その概念は高齢者のみならず障がい者・児、生活困窮者まで含むようになっていきます。その中で我々作業療法士はどのような役割があるのでしょうか。

様々な社会保障制度がありますが介護保険の目的を例にして考えてみましょう「尊厳を保持して、自立した日常生活を営むことができるよう、様々なサービスの給付を行う」と規定しています。その中で作業療法士の役割はまずはアセスメントを行って対象者の方のADL・IADLの自立を阻む要因を抽出する、そしてその要因に対するプログラムを予後予測に則して進めていくことです。そして生活機能向上の一躍を担っていくことが作業療法士の重要な役割となります。現在全国の市町村においては自立支援型マネジメントの推進を目指して介護予防のための地域ケア個別会議を実施しております。この会議は「要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立を促すこと」ひいては「高齢者のQOLの向上」を目指しています。そのためにADL・IADLの自立を阻害する要因を多職種協働において課題解決していくことが重要になります。作業療法士は助言者として理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士と共に参加します。この地域ケア会議の場で作業療法士は生活機能のアセスメントの専門家として大変重要な位置を占めています。作業療法士の専門性を発揮できる場です。そのケア会議も高齢者から障がい者・児を含めた共生型のケア会議へと広がっています。また総合事業においても通所C型、訪問C型、住民の通いの場への作業療法士への関与も期待されています。この期待はコロナなどの感染症への対策、その影響による生活不活発な高齢者の増加、少子高齢化、生産労働人口減少などの課題に対する危機感の表れです。この課題にどう答えるか、地域での作業療法士の役割を示す時です。その役割とは「活動」「参加」への関与です。この役割を地域で実践できれば作業療法士の存在意義は大きく高まります。我々作業療法士が認識している以上に行政や地域から期待されています。この思いに答えるか否か我々の今後の取り組み如何にかかっています。

今回の講演では「活動」「参加」に作業療法士がどう関わっていくか、何を期待されているかをお伝えできればと思います。宜しくお願い致します。